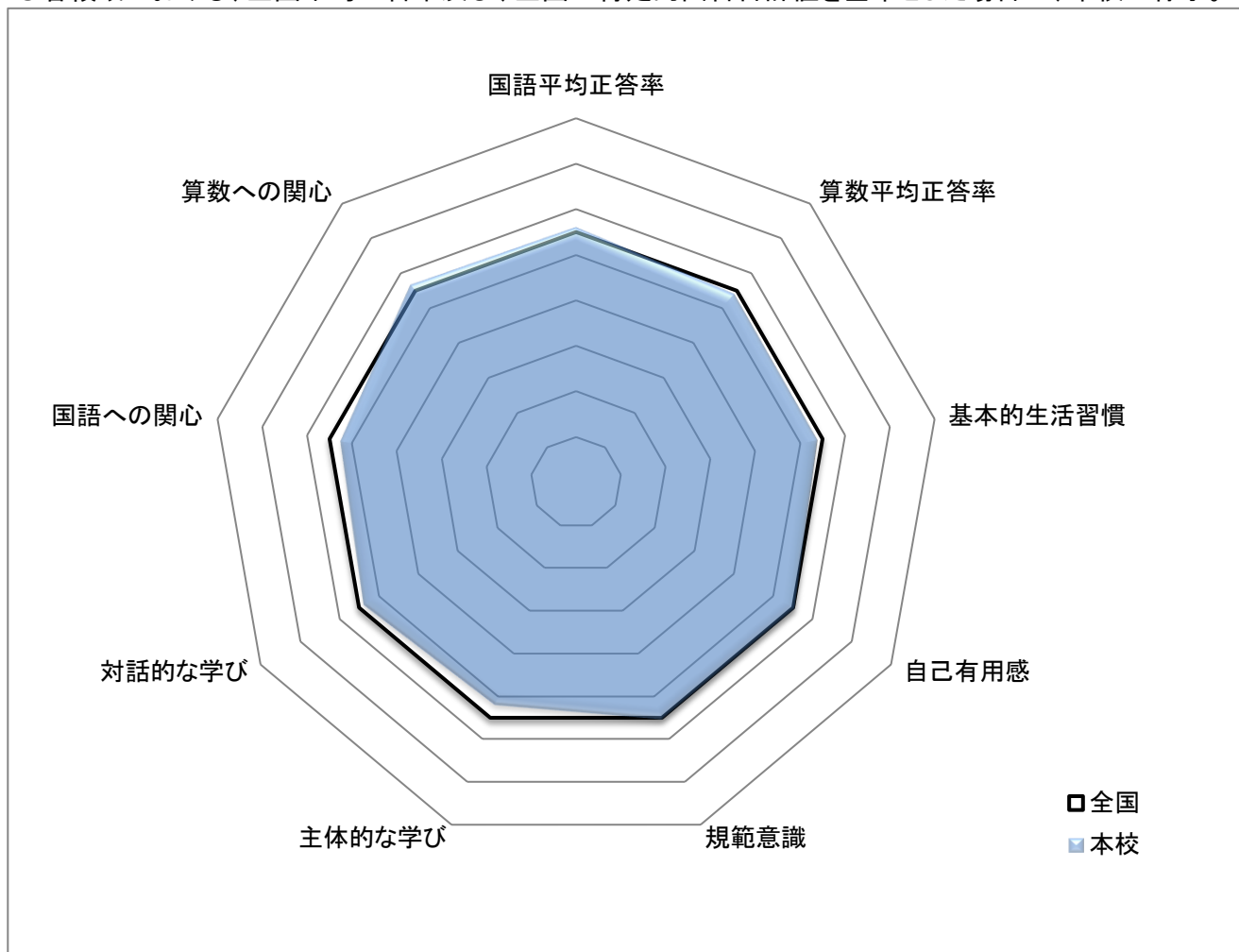


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○「基本的な生活習慣」「規範意識」「自己有用感」は全国平均とほぼ同じになっており、家庭の協力もあり、児童が学習に向かうための土台ができていると考える。
 ○「主体的な学び」が全国平均を下回っている。教師主導の授業ではなく、児童が「学びたい、知りたい、調べたい」と思える課題を設定し、学習を展開させるような授業改善が必要である。

《授業改善のポイント》

算数科の学習への関心は、全国平均をやや上回っているが、国語科への関心は平均をやや下回っている。国語・算数共に「何ができるようになったか」児童がメタ認知できるように振り返り活動を充実させていく。また、自分の生活を振り返って学習内容と結び付けて考えたり、学習したことがどのように生かせそうかを考えたりすることで、国語・算数への興味・関心を育てていく。併せて、基礎基本の充実も大切である。タブレット端末を活用した学習を通して反復学習をすることで基礎力の定着を図る。算数では、習熟度別の少人数指導を行い、習熟度に応じた課題の設定やきめ細やかな指導に努めていく。国語科では、教師が学年の系統性を意識し、何ができている、何ができているのか児童の実態に応じて身に付けさせたい力を明確にし、単元計画を立てていく。

《チャートの特徴》

○チャートの形が全国とほぼ同じになっており、全国平均と同じような結果となっていることが分かる。
 ○「算数への関心」は、全国平均をやや上回っている。
 ○「国語への関心」「主体的な学び」が、全国平均をやや下回っている。
 ○国語の正答率は、全国平均をやや上回っている。
 ○算数の正答率は、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

○「篠五小家庭ルール」や「SNS篠五小家庭ルール」を活用しながら、生活習慣を今後も整えられるよう家庭にも協力を促していく。また、「江戸川っ子study week!」期間を中心にICTを活用した家庭学習への協力を家庭に呼びかけ、家庭学習の習慣を身に付けさせていく。